

令和5年度（2023年度）

# 新規就農者アンケート結果



公益財団法人

南砺幸世未来基金

## 目次

1. 調査概要.....	3
2. 調査結果.....	4
問1. 現在のお住まいはどちらですか .....	4
問2. 新規就農時期 .....	4
問3. 新規就農を希望された当時の状況について教えてください。 .....	5
問4. 就農状況.....	5
問5. 栽培形態.....	6
問6. 主たる栽培作物.....	6
問7. 農業を志望した理由.....	7
問8. 今後目指す農業.....	9
問9. 問8で「新たな農業への転換」と回答した方は、具体的にどのように転換するのか教えてください。 .....	9
問10. 農業での収入だけで生活していくことは可能ですか.....	10
問11. 副業の有無.....	11
問12. 営農に関することについて課題はありますか? .....	11
問13. 課題は何ですか? (複数回答可) .....	12
問14. 問13に関して課題の詳細を教えてください。 .....	12
設問15. 営農(栽培、販売、経営等)に関する事で、困り事を相談できる人はいますか。 .....	13
設問16. 現状の農業や暮らしにどのような支援があればいいですか。(複数回答可) ....	14
設問17. 将来への不安があれば記載してください .....	15
問18. 家族構成(同居人の状況)について教えてください.....	16
問19. 住居状況について教えてください.....	16
問20. 住居に関して困り事があれば教えてください。 .....	17
問21. 地域住民との関係性について .....	17
問22. 地域住民との関係性に関して困り事があれば教えてください。 .....	17
3.総括.....	19

## 1. 調査概要

### (1) 目的

新規就農者の方々への効果的な支援策を検討するために、過去約10年間に南砺市で新規就農をされた方を対象に意見を伺うもの

### (2) 調査方法

2012年～2022年に南砺市で就農された方を対象にアンケートを郵送し、返送及びインターネット回答により回収

### (3) 調査期間

2024年1月22日(火)～2月28日(水)

### (4) 回答者総数

25人

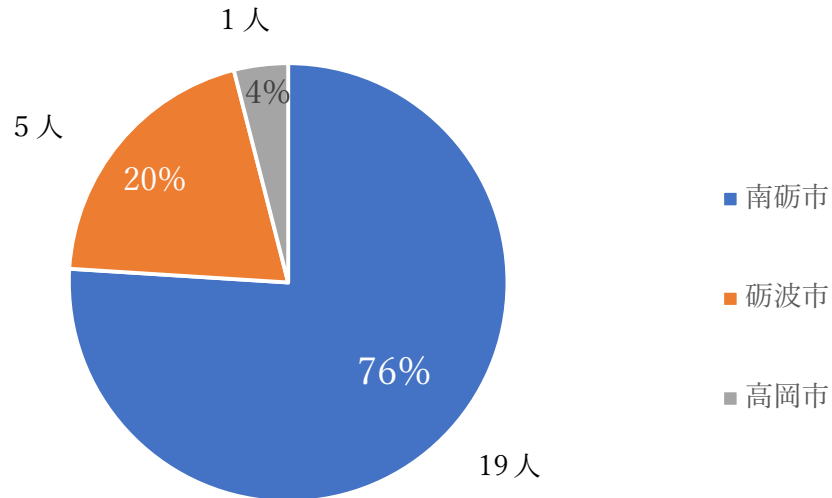
### (5) その他

本調査結果は、回答時点で農業を継続している方の回答をまとめる

## 2. 調査結果

### (1) 回答者属性

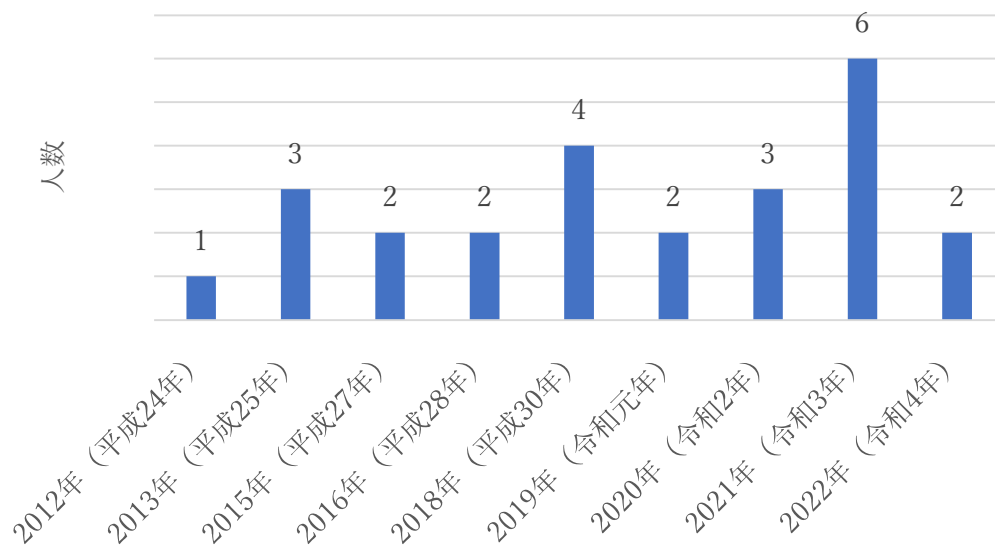
問1. 現在のお住まいはどちらですか



[南砺市在住の方が7割以上を占める]

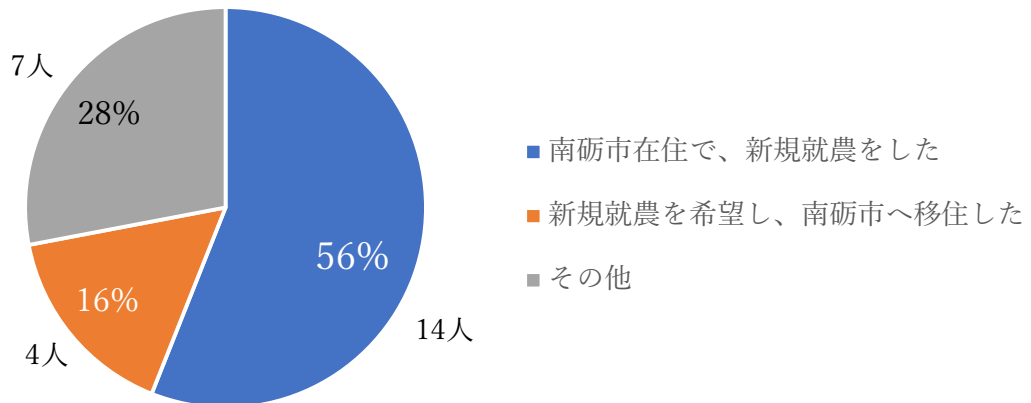
### (2) 就農に関する質問

問2. 新規就農時期



[人数にばらつきがあるが、毎年新規就農者がいる]

問3. 新規就農を希望された当時の状況について教えてください。

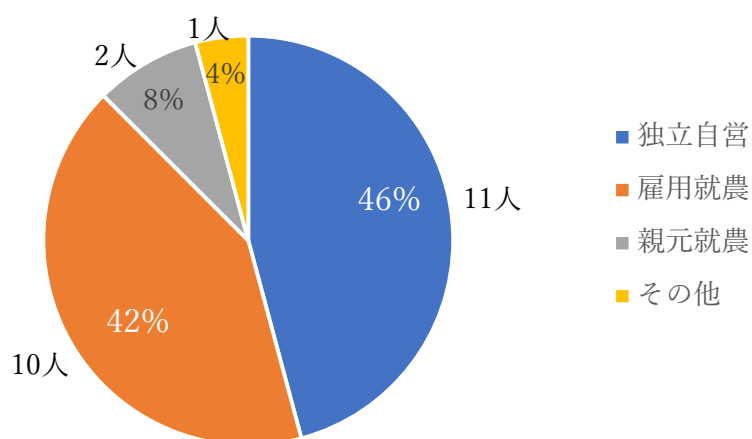


<その他>

- ・市外在住で南砺市へ通勤
- ・砺波市在住で、新規就農した
- ・地元富山での新規就農を希望した
- ・就農希望で石川県より南砺市の農業法人に3年勤務し、その後1年間とやま農業未来カレッジに通い、卒業後新規就農した
- ・妻が移住を決意し、移住するまでの期間農政課と相談を重ねた
- ・高校生

[南砺市在住で新規就農者をした方が半数以上を占める。新規就農を希望し、南砺市に移住した方は2割未満である]

問4. 就農状況



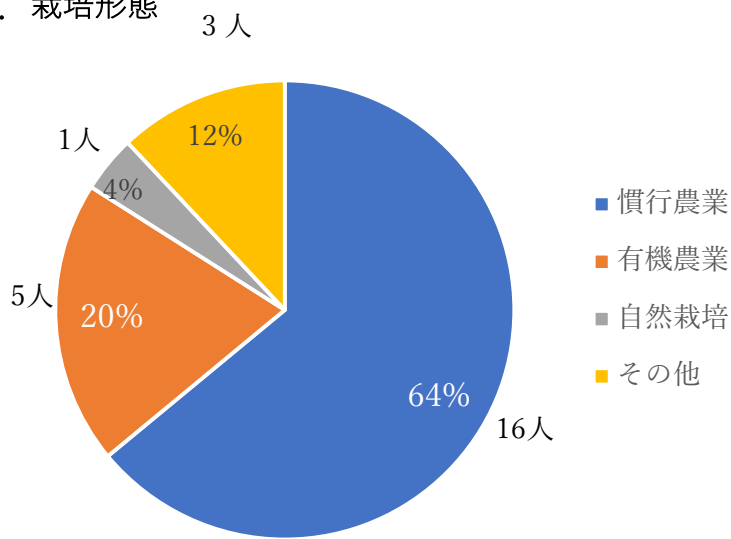
※無回答者1人

<その他>

- ・自営と営農法人等からの業務委託

[独立自営、雇用就農がそれぞれ4割以上、親元就農は1割以下である]

問5. 栽培形態

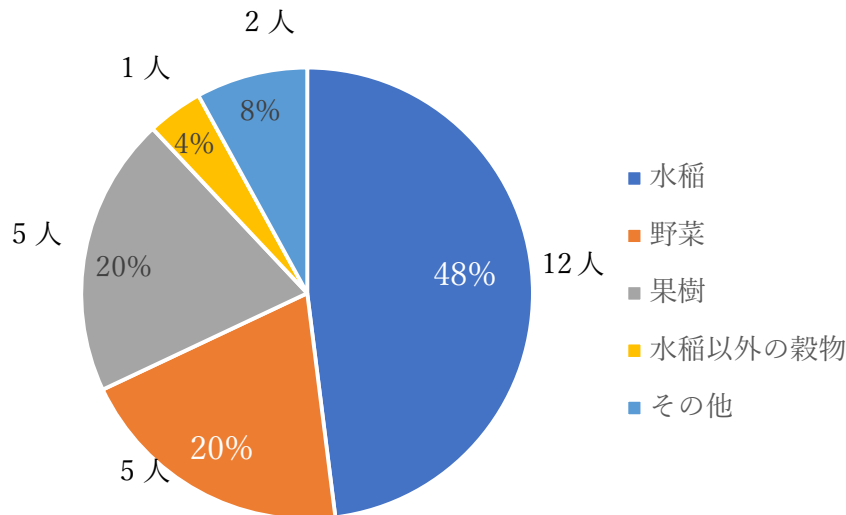


<その他>

- ・減農薬（品目による）
- ・アレルギー体質の為、できる限り農薬を減らしている
- ・慣行農業と有機農業

[慣行農業が6割以上。有機農業、自然栽培、減農薬の方を合わせて4割未満である]

問6. 主たる栽培作物



<その他>

- ・野菜、果樹
- ・水稲、水稲以外の穀物、野菜

[水稲が約5割を占める。野菜と果樹はそれぞれ2割である]

## 問7. 農業を志望した理由

※栽培形態、就農状況、主な栽培作物の段階に分けて記載

### <慣行農業>

#### 雇用就農

##### ○水稲

- ・農業が好きやったから
  - ・動植物と近い環境かつ自分の生き方にあった職業農業が近かった
  - ・農業科の高校を卒業したから
  - ・屋外で働きたかった事と、体力を活かせる仕事をしたかった事
  - ・太陽とともに働きたかった
  - ・高校での経験を活かしたことをしたかったから
  - ・作物を育てることが好きだったか
  - ・実家が兼業で農業をしていたから
- ##### ○複数（水稲、水稲以外の穀物、野菜）
- ・地域農業の活性化

#### 親元就農

##### ○水稲

- ・高齢化、後継者不足で地区内の荒地、放棄地が出始め又この後も出てくるのが分かっていたため、いずれ農業をしてみたいと思っていたのでこのタイミングで農業を始めた。又、親も認定農業者でやっているの元気なうちに多く学んでおきたいと思ったため

##### ○果樹

- ・家業継続の為

#### 独立自営

##### ○水稲

- ・興味があったから

##### ○野菜

- ・以前より自然豊かな生活に憧れていた
- ・家が農家だった為

##### ○果樹

- ・美味しい果物を作って、食べてもらいたい

#### 不明

##### ○水稲

- ・誘われたから

<有機農業、自然栽培、その他>

雇用就農

○水稲

- ・お米が好きで自分でも作ってみたいと思ったから

独立自営

○野菜

- ・食への関心（安全性）が高まり、仕事としても自然に近い環境で働くことに魅力を感じた
- ・環境負荷の少ない農業をすることによって自然環境を良くしたいと思ったから
- ・価値のあるものを自分の手で作りたかったからです

○果樹

- ・出産を機に、未来ある子どもたちのことを考えた時、その食べ物がどのようにつくられるかわかって欲しい（食育）と思った。また、環境のことを考えて自然栽培にすべきと考えました
- ・子供時代、何を食べても蕁麻疹が出る体質だったので食に興味があった。農業が盛んな富山県に引っ越すなら学びながら農業を始められるのではと思ったので
- ・「自分で作り、売る」というダイレクトな仕事にひかれた。植物を工夫しながら育てることが楽しい。

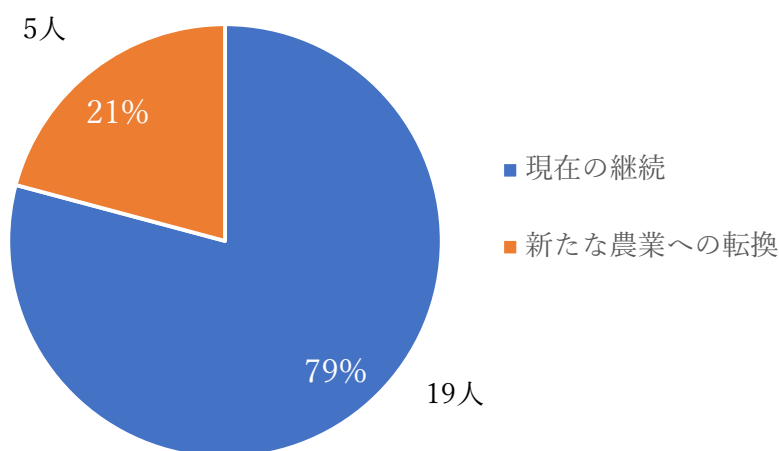
○水稲以外の穀物

- ・他の仕事に関わるうち、農業の可能性を感じて就農した

[農業を志望した方は農業への興味・関心が大半の志望動機であり、その他として家業を継ぐために志望した方もいる。有機農業の方は農業への関心に加えて、環境への負荷、安全性を理由に農業を志望している方がいる。]



## 問 8. 今後目指す農業



※無回答者 1 人

[約 8 割が現在の農業を継続する]

問 9. 問 8 で「新たな農業への転換」と回答した方は、具体的にどのように転換するのか教えてください。

※栽培形態で分けて記載

<慣行農業>

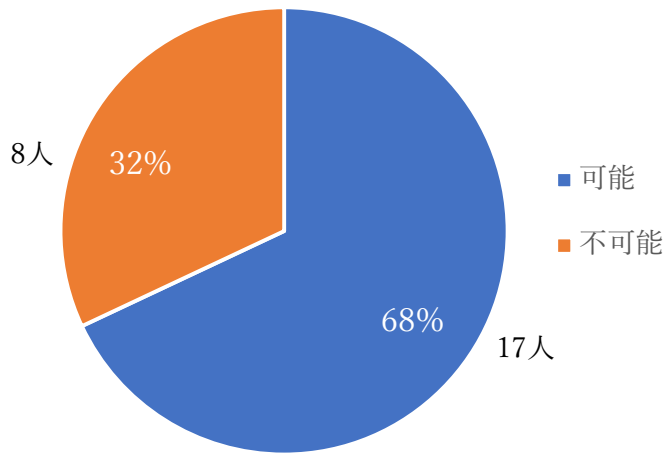
- ・自身の園芸作物だけの経営ではなく、地域の農業を守る意味でも、集落営農、地域との連携を深め、自分の農業経営のテーマでもある、地域を巻き込んだ元気な田舎づくりを实践したい。また農業者同士の繁忙期、閑散期をマッチングさせた、労働力交換コミュニティを作っていきたい
- ・品目を増やしていく
- ・水稲以外の作物を生産することによる複合経営化

<有機農業>

- ・いわゆる百姓。営農しつつ、他のサービスや業務委託等での複合経営

[新たな農業の転換方法として、新たに栽培品目を増やすことだけでなく、農業以外の仕事と組み合わせていく回答も見られる]

問 10. 農業での収入だけで生活していくことは可能ですか



○就労形態

雇用就農：10人全員が「可能」と回答

親元就農：2人のうち、「可能」が1人、「不可能」が1人

独立自営：12人のうち、「可能」が5人、「不可能」が7人

○栽培形態

慣行農業：16人のうち、「可能」が13人、「不可能」が3人

有機農業、自然栽培、その他：9人のうち、「可能」が4人、「不可能」が5人

○主な栽培品目

水稲：12人のうち、「可能」が11人、「不可能」が1人

野菜：5人のうち、「可能」が3人、「不可能」が2人

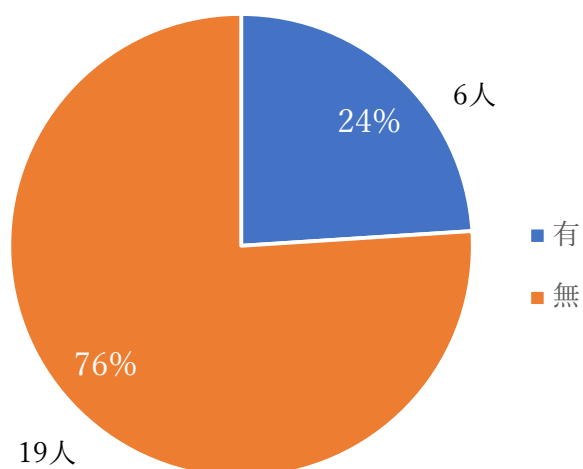
果樹：5人のうち、「可能」が2人、「不可能」が3人

水稲以外の穀物：1人のうち、「不可能」が1人

その他（複数品目）：2人のうち、「可能」が1人、「不可能」が1人

[就労形態：雇用就農全員が農業だけの収入で生活が可能であるが、独立自営の方は農業だけの収入では生活が成り立たないと答える方の割合が多い。  
栽培形態：慣行農業の方は可能と回答した方が多く、有機、自然栽培、その他の方は不可能と回答した方が半数を超えている。栽培品目：水稲の方は概ねの方が可能と回答した]

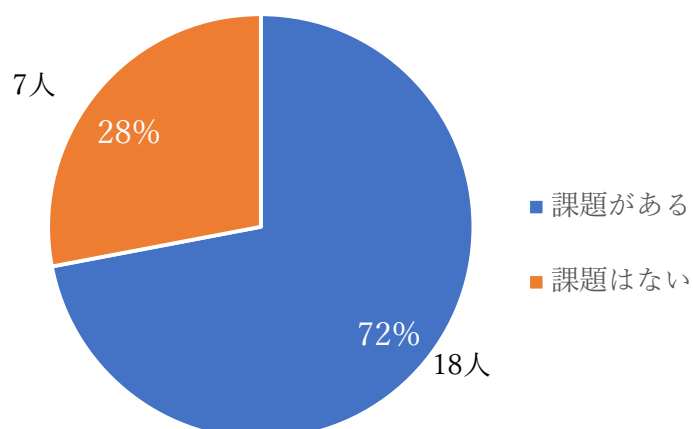
### 問 11. 副業の有無



- ・「有」と答えた方6人のうち、自営が5人、親元就農が1人
- ・問10で農業での収入だけで生活していくことは「不可能」と回答した方(8人)のうち5人が副業「有」と回答

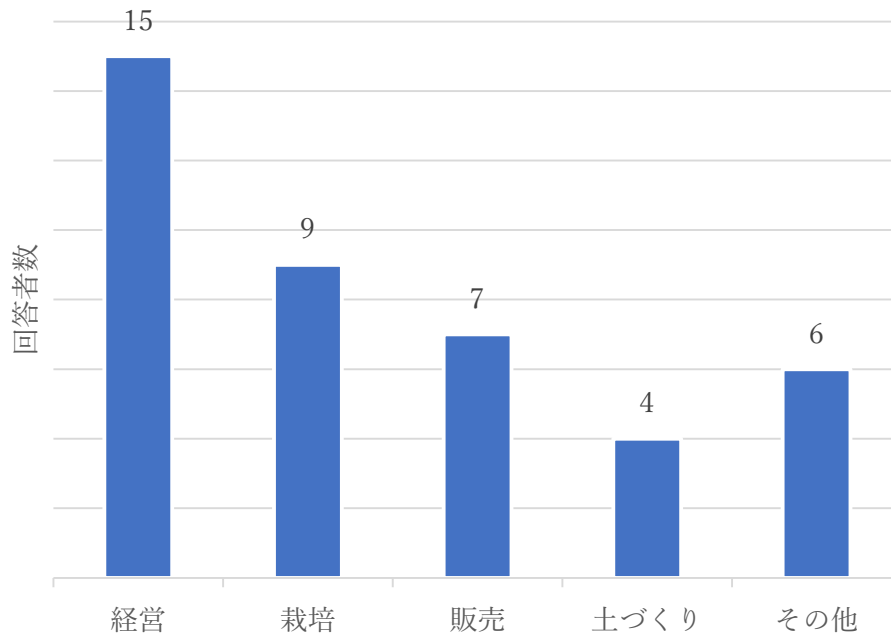
[2割強の方が副業をしている]

### 問 12. 営農に関することについて課題はありますか？



[7割以上の方が営農に課題があると感じている]

問 13. 課題は何ですか？（複数回答可）



<その他>

圃場、労働力、機械等リソースの確保、人材の育成、施設、資材等の更新

[経営に問題とある答えた方が多く、次に栽培・販売・土づくりの回答が続く]

問 14. 問 13 に関して課題の詳細を教えてください。

○経営

- ・設備投資できるほどの資金力が不足
- ・農業機械が高価すぎる、米価の低価格
- ・経費がかかり過ぎる
- ・人材のスキルアップ
- ・アルバイトの確保
- ・作業従事者の高齢化
- ・生産性を上げるためには人手が必要だが人を雇うだけの余裕はない
- ・答えきれないですが、直近の課題としては経営面です。人を雇いたいです、休憩場所、トイレなど設備投資をしたいですが資金繰りが難しいです。夫婦2人でしていますが早く人を雇える状態にしないと軌道に乗らないと感じます
- ・柿とアスパラの二本立ての予定が、アスパラが思うように出来ず全滅し、収入が一年に一度きりになっている。コロナが始まり市場の卸値が酷く下がってしまったのも打撃が大きい。資金がないのと不器用で柿の世話で精一杯で余力もなく、出費ばかり増えて毎年赤字である

○栽培

- ・野菜などに手をかけてより品質の良いものを栽培すること
- ・作物が病気にかかってしまう。土壌由来の病原菌によるもの
- ・技術取得のために勉強しながらやっているが、やはり急な環境悪化（大雨による水害や、干ばつ）に露地栽培だけだとどうしようもなくなることがある。それによる見込み収入がなくなる
- ・食品率の向上

○販売

- ・販売単価
- ・米価の低価格（稲作を中心とした経営のため）
- ・米販売の伸び悩み
- ・干柿の時価販売率の向上

○土づくり

- ・経費を抑えた必要成分の確保

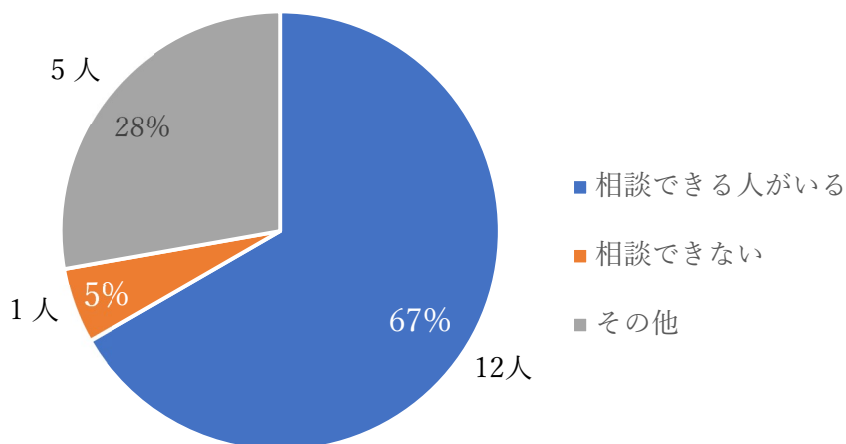
○その他

- ・乾燥場・粃置場の拡充
- ・若手社員の育成が難しい

[経営の課題は、事業者によって多岐にわたる]

設問 15. 営農（栽培、販売、経営等）に関することで、困り事を相談できる

人はいますか。



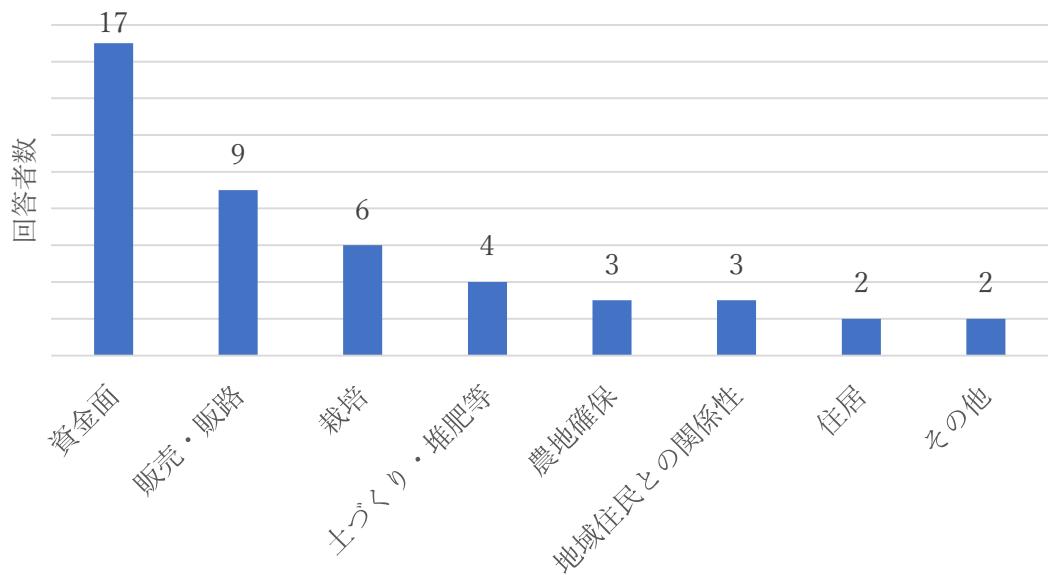
<その他>

- ・相談はできるが、支援は望めない
- ・いたりいなかったり
- ・相談できる人はいるが、相談できる内容には限りがある
- ・相談するタイミングが分からないので相談出来ていない
- ・販売、経営についていない

[約6割の人が相談できる人がいると回答している。一方で、相談者がそもそもいない、内容によっては相談できる人がいないという声も見られた]

設問 16. 現状の農業や暮らしにどのような支援があればいいですか。

(複数回答可)



<その他>

- ・機械設備等の貸出、共有等
- ・アルバイトの紹介

[資金面の支援が必要としている人がもっとも多い]

## 設問 17. 将来への不安があれば記載してください

### ○経営・資金面

- ・ 今後営農を継続していけるのかどうか不安。経費がかかりすぎる。
- ・ 返済が焦げ付くこと
- ・ 2年後に借入の支払いが待っているが、現状一人農業で栽培～販売、経理等をしていると限界が出てくる。スタッフを雇うが、売り上げがそのまま雇人費になり、なかなか黒字にならない。また、野菜の価格が世の中に対して上がらない（現状上げられない）割には、資材等の物価高で経営状況が悪くなりがち
- ・ 母が補助してくれているが、高齢のため動けなくなると苦しい。主に販売管理、アルバイト管理、経理など他人に任せにくい仕事が苦しくなる。
- ・ 資材の価格が上がっているが、お米の価格は変わらない
- ・ 自然の景観を守るための補助金が欲しい

### ○栽培

- ・ 大型の自然災害

### ○人材

- ・ 人材不足
- ・ 規模拡大していく上で従業員の確保（年間雇用が難しい）

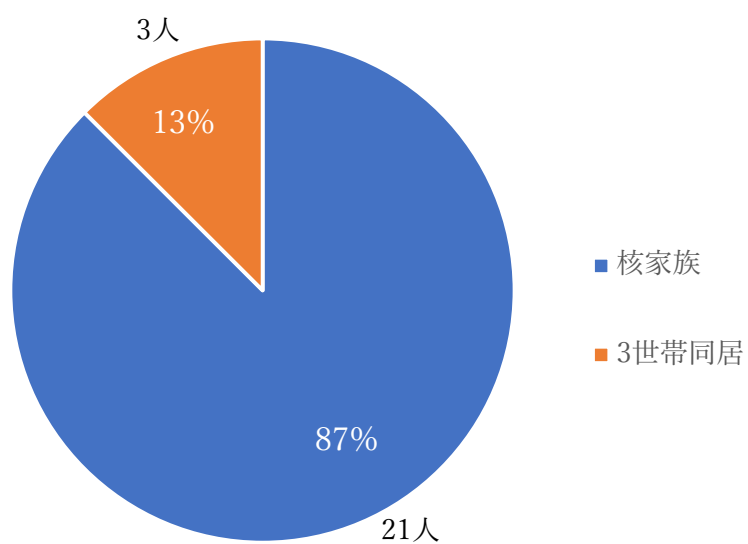
### ○その他

- ・ 色々あるが、まあ何とかなるだろうと思っている。
- ・ いずれ自力では農業継続が不可能
- ・ 上記で記した課題が不安です

[資金的な不安が多く見られる]

(3) 家族・住居・地域について

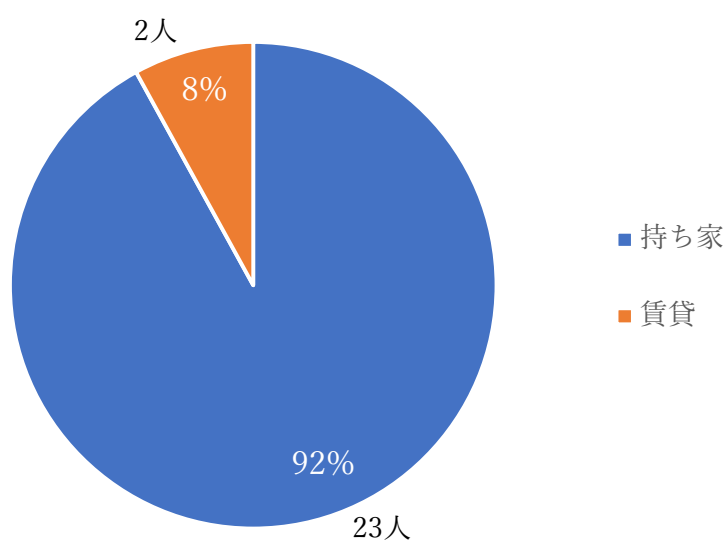
問 18. 家族構成（同居人の状況）について教えてください



※無回答者 1 人

[約 9 割が核家族、残りが 3 世帯同居であり、単身者はいない]

問 19. 住居状況について教えてください



[持ち家が 9 割以上である]

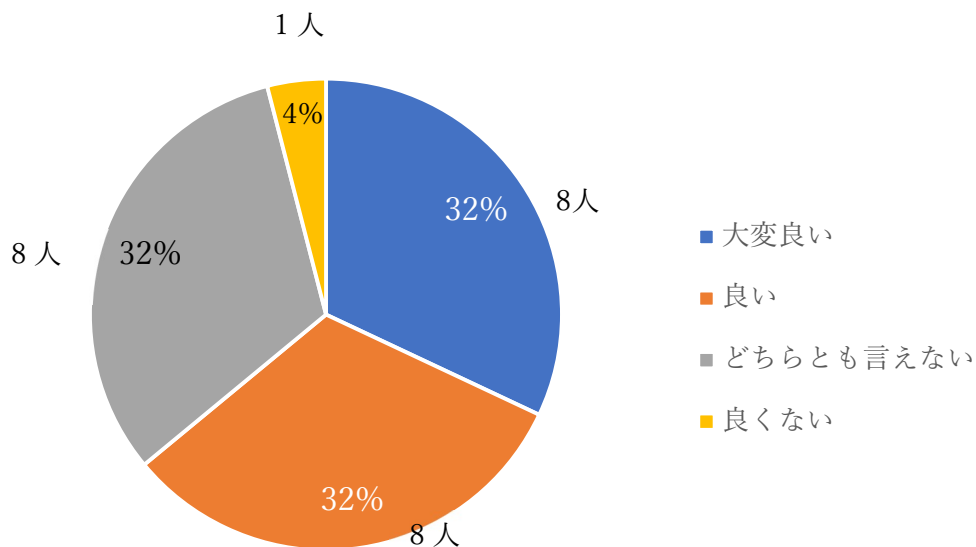


問 20. 住居に関して困り事があれば教えてください。

- ・生活面
- ・住宅ローン支払い中で、大規模にリフォームする経済的余裕がない
- ・中古リフォーム物件なので見た目よりも老朽化している部分がある
- ・古民家ですがこれからのメンテナンスなど
- ・老朽化、狭い
- ・古民家のため修繕しなくてはいけない箇所がある
- ・一軒家で暮らすのが初めてなので、家の世話をどのようにすれば良いのか分からない
- ・ねずみ

[古民家と一軒家に関する困りごとがある]

問 21. 地域住民との関係性について



[地域住民との関係性が大変良い、良いと回答した方が約6割を占める]

問 22. 地域住民との関係性に関して困り事があれば教えてください。

- ・特に問題はないが、南砺市内での移住の為、関わりも薄い
- ・地区内の圃場をできる限り請負でやりたいと思っているがすべては無理。そういった場合地権者はどう考えているのか分からない。放棄地になり雑草や害虫への対応が困る可能性がある
- ・今農業を頑張っている高齢者と後継者となりうる若い人との意見があっていない

・周りは営農組合だが、一人独立営農しているためか、なかなか中に入り込めていない感じがする

[市外から来た人と現地住民だけでなく、年代による分断を感じている方もいる]

### 3.総括

今回のアンケート調査では、南砺市内における新規就農者の課題を調査することで、南砺市全体の就農者支援の方策を考える基礎資料としたい。この調査で見えてきたこととしては以下の通りである。

- ・独立自営就農をする新規就農者のうち半数以上の方が、農業だけでは生計がなりたないと回答し、また将来についても不安を抱えている。

- ・営農に関する課題を感じている人は7割を超え、経営の課題は多岐にわたっている（栽培、販売、土づくり）が、それらの課題を相談できる体制は十分には整備されていない。

（特に独立自営者においては、相談ができる人がいないと答えた方においては支援が必要と考える）

- ・新規就農するために移住してきた方（20%程度）は、古民家一軒家に住む場合が多いが、家の修繕にお金をかけることができなかつたり、家の管理方法について相談できていなかたりなど、住まいに関する困り事の解決ができていない。

- ・新規就農者のうち、地域住民との関係性が必ずしも良いとは言えない人が36%いるが、関係性を強化するきっかけが持ちにくいとの声も確認することができた。

南砺市内において新規就農をした方々が今後も農業を継続するためには、

①農業事業者として経営面の改善（課題の解決、相談ができる状態）②新規就農移住者の支援として住まいに関することや、地域に関すること（地域住民との関係性の構築）も必要な手立てであると考えます。

これらの結果から（公財）南砺幸せ未来基金として南砺市農政課に協力を仰ぎ、新規就農者への支援策を検討するために協議会「関係者会議（仮称）」を設置し、具体的な支援方法について協議する。

また、新規就農者への定期的（年1回）なアンケート（一部ヒアリング）を実施し、継続的に課題の深堀と調査を行うことと、新規就農者を取り巻く課題解決のために農業分野以外の関係者ヒアリングを行い必要な支援についての考察を深めていく必要があると考える。